

第 11 回海業推進会議 議事概要

開催日時：令和 8 年 8 月 7 日（金曜日）14 時 30 分から 16 時 00 分

開催場所：愛南町役場本庁 3 階 大会議室

参加者：稲田委員、井上委員、浦崎委員、加洲委員、栗林委員、秦泉寺委員、
澤近委員、関根委員、永元委員、濱本委員、藤田委員、前田委員、宮脇委員、
森委員、若木委員
愛南町 中村町長
事務局（尾崎、大野、広瀬、加藤、小山、辻田、西村）
一般社団法人 U m i d a s 清水
漁港漁場漁村総合研究所 高階氏、伊藤氏*
愛媛県庁 黒野課長、青野係長、野村主幹*
水産庁計画課 海業政策課 海業・利用調整班 利用調整係 賀屋係員*
（*オンライン参加）

1. 開会

事務局より、配布資料及び出席委員の確認を実施した。

2. 町長挨拶

町長による開会の挨拶の後、参加委員の自己紹介を実施した。

3. 議題

（1）前回までの海業推進会議等について

事務局より、立ち上げから現在までの経緯が下記のとおり説明された。

経 緯：令和 5 年 3 月に水産庁「海業振興モデル地区」に選定。

令和 6 年 3 月に「愛南町海業グランドデザイン」を策定。

令和 7 年 3 月に中間支援組織「Umidas」を設立。

組 織：令和 8 年 4 月より「海業推進室」が「海業振興課」へと組織改編された。

基本理念：「なりゆきの未来からなりたい未来へ」をスローガンに、多主体連携による
自律的な取り組みを推進する。

（2）愛南町海業グランドデザインの進捗報告

事務局より各プロジェクトの進捗について次のとおり説明された

○愛南海業コンシェルジュ “U m i d a s” プロジェクト

・ぎょしょく体験プログラムの構築及び実証、ガイド人材育成の体制づくり、先進地視察などの
情報収集を行い、昨年度は 1 件の体験プログラム（郷土料理）を実装した。今年度は、3 件（ウ
ニッコリー体験、郷土料理、市場見学 他）を実装予定。

・今後の課題として、体験提供者の育成・実績作りや町外向けのイベント情報の発信、体験等のコンセプトの明確化、農林・水産・飲食店も巻き込んだ連携が挙げられた。また、産業まつりのような食をテーマにしたイベントを開催したいという考えもある。

○インバウンド！A I N A N ツアー生成プロジェクト

- ・令和7年度は国内需要が非常に好調で、特に『シーウォーカー』が高い評価を得ている。
- ・令和7年度に、外国人観光客からの認知度向上及び町内の環境意識醸成を目的としてグリーンフィンズ認証を取得、令和8年度も継続見込み。
- ・今年度は既存のサービスに注力する予定。また、若者向けのモニターツアーや学生向けプログラムなどの構築により海の体験教室の定着化も見られている
- ・海底熟成ワインはふるさと納税返礼品として登録し、令和7年度に6本前後出荷済み。

○愛南町きらめき海道プロジェクト

- ・町内の観光スポット、イベントを網羅した観光導線を策定し、令和7年度の3月にプロジェクトの実装を開始。四季や通年を代表するイベントや見どころを整理し、将来的に商工観光課やU m i d a s 等が活用し、観光案内・宣伝効果をもたらすことを目的としている。
- ・町外での認知・誘客導線やイベント間連携が弱く周遊に繋がりにくいため、各イベントの情報提供や食事処や物販への導線形成など、周遊を促進するための連携体制を強化する必要がある。

○愛南町ブルーカーボン創出プロジェクト

- ・J ブルークレジット[※]認証について、令和7年度は 33.8 t -CO₂が認証され、令和6年度の認証分と同様に買取り先の公募を行っている。今年度の申請分は冬場に水温が下がらなかったこと等により、幹縄筏に繁茂するマメタワラの量が少なく CO₂吸収量は3～4割程度になる見込み。
- ・買取り先の確保が大きな課題となっており、対策として GX-ETS（排出量取引制度）の活用や愛媛県ゼロカーボン推進課との連携を検討している。また、まとまった量の申請や実測データの精度向上にも引き続き努める方針。
- ・ウニッコリー畜養関連については、令和7年度は水温等を要因とする品質不安定により生産販売を2月中止。今後は体験コンテンツとして町内研修やツアープログラムでの実施を想定し、畜養体制を見直していく。

○愛南ぎょしょくツーリズムプロジェクト

- ・ぎょしょくツーリズムはU m i d a s が実施し、令和7年度は17件実施、今年度は20件前後の実施を目標としている。また、町内外の出前授業は愛南町ぎょしょく普及推進協議会が実施し、令和7年度は116件実施、今年度は120件前後の実施を目指す。
- ・関東地方でのぎょしょく出前授業を担う「ぎょしょく伝道師」は現在13名認定しており、今年度も研修の受け入れを予定している。
- ・課題としては、天候に左右されない体験コンテンツを代替案として構築することや、旅行会社とのマッチング、体験受入事業者の本業への負担軽減などが挙げられる。

(3) 海業に関する意見交換について

運営委員会（7月23日開催）での議論に基づき、プロジェクト間の連携による新たな価値（アウトカム）の創出について報告・意見交換が行われた。

- ・運営委員会では、「企業研修向けの環境教育ツアー構築」、「国道56号線沿いのワンストップ拠点」、「海のエキスパートを育成する講座の開講」、「採苗～収穫を体験する海藻のオーナー制度」、「産業まつりのブラッシュアップ」などが挙げた。

- ・これらのアイデアに対し、単なる人数（アウトプット）ではなく、参加者の意識の変化や地域への誇りの高まりといった「アウトカム」を評価軸に据え、「共感ツーリズム」を展開すべきとの提言があった。

4. その他

その他、事務局からの連絡と委員からの情報提供があった。

- ・U m i d a s より、令和8年12月から1月にかけて、農業・ウニッコリー・市場食堂を組み合わせた有償モニターツアーを計画していることが報告された。

- ・漁村総研より、船越漁港をモデルに、漁港施設をレストランや直売所として活用しやすくするための計画策定が進行中であると報告された。

- ・事務局より、東京で開催される「エコプロ2026」への出展に向け、水産業の課題等に関するアンケート協力を各委員に依頼した。

- ・ふるさと住民登録制度を用いて、海業で訪れた関係人口を「ふるさと住民」として繋ぎ止める仕組みとの連携が提案された。

以上